

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 内水面水産試験場
 所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	資源増殖技術の高度化研究	人工種苗放流効果調査	海産系種苗の放流特性を明らかにし、効率的な放流技術を確立する。	海産系種苗を河川に放流し、解禁前までの成長、現存量、解禁直後の釣果を把握した。	5	17	B	海産系人工種苗についての放流後の特性評価を実施し、今後の放流技術確立のための知見が得られた。	妥当な評価
2			ワカサギ 資源動向モニタリングと解析	ワカサギ漁場における資源状態と漁場環境を調査し、適正な資源管理手法を開発する	漁場環境調査（水質調査、餌料生物調査）及び、資源量調査（産卵場調査、穴釣り調査、生息域、遊泳域調査）を実施した。	5	17	B	漁場環境及び資源量についての調査結果が得られたが、資源管理手法の検討までは至らなかった。	妥当な評価
3			ワカサギ 漁場特性に応じた増殖技術開発	県内産ワカサギ種卵の生産安定のため、採卵技術、放流技術及び輸送技術を開発する。	効率的かつ大量生産のため、親魚採捕技術、採卵技術、種卵放流技術の改良を行うとともに、漁協間の種卵輸送技術の指導を実施した。	7	17	A	採卵数、受精率の向上及び作業の効率化が図られ、当初の目的を十分に達成した。	妥当な評価
4			ヒメマス 資源動向モニタリングと解析	ヒメマスの生息、成長に関わる沼沢湖の環境条件について把握する。湖内での資源変動について把握する。親魚成熟状況及び天然の再生産を確認する。	ヒメマスの生息に関わる環境条件の調査を実施した。さし網によるヒメマス漁獲量等のデータからヒメマス資源の状況について推測した。沼沢湖及び流入河川において産卵場の探索を行った結果、ヒメマスの産卵を確認した。	5	17	C	ヒメマス資源の実態、環境要因などについて知見を得たが、正確な資源状態の把握には至らなかった。	妥当な評価
5			ヒメマス 漁場特性に応じた増殖技術開発	親魚の回帰率向上のため記録放流手法を検討するとともに、地元で実施可能な稚魚の簡易種苗生産手法を開発する。	河川水馴致を行ったヒメマス標識魚を放流し、河川水記録効果を検討した。金山町内において簡易種苗生産施設を利用したヒメマス稚魚の生産フローを確立した。	7	17	B	現地での放流種苗の生産が可能となり経費の節減が図られるなど、研究目的を概ね達成した。	妥当な評価
6	養殖技術の高度化研究	不稔魚作出研究	不稔の特性をもち、年間を通じて成長、肉質が良い3倍体魚を民間でも容易かつ、安定的に量産することができる技術を開発する。	4倍体の親魚群を作出し、継代を重ねることで安定した4倍体親魚群を作出した。また、通常魚（2倍体魚）との交配による3倍体魚生産技術を開発した。	3	17	B	ニジマスについて、不稔魚（3倍体）の供給が可能となった。	妥当な評価	
7			クローン魚作出研究	優良形質をもった魚の継続性を効率よく行う方法として、クローン魚の作出技術を開発する。	クローン（2倍体、並びに4倍体）を作出することにより生物学的特性の継続性を調査した。クローン2倍体魚からの4倍体魚の作出手法を検討した。	3	17	C	研究目的の一つである2倍体クローン作出技術を確立した。	先進的な技術に挑戦することは好ましいことである。成果がいま一つもしかたのないことである。
8			会津ユキマス養殖技術高度化研究	新たな養殖対象魚種である会津ユキマスを安定的かつ安価に量産する技術を開発する。	種苗の歩留まりを高位的にするため、卵管理方法、初期飼育方法等の検討を行う。また、生産経費のコスト低減手法を検討した。	元	17	A	会津ユキマスを安定的に生産できる技術が確立されたことから、研究成果は目的を達成した。	よい成果が出ている。ブランド化など技術を大切に育てたい。
9			マゴイ養殖技術高度化研究	全雌魚を作出するために、性転換雄の作出技術を開発する。	通常魚に性転換処理を施して性転換雄を作出し、これを用いて全雌魚を作出した。また、雄化処理方法を開発した。	13	17	A	当場でコイ全雌魚種苗を数十万単位で生産することが可能となり、コイ養殖業者に供給できる体制となったことから、目的を十分達成した。	妥当な評価
10			養殖対象新魚種導入研究	鯉養殖の副産物として生産されているモツゴの生産量の増大に資するため、モツゴの種苗生産技術を開発する。	モツゴ生産の安定化と増産を図るため、多回産卵の生態を人為的に管理することにより産卵調節する方法を検討した。	元	17	B	集約的に大量の卵を確保するための手法が開発されたことから、研究成果は概ね目的を達成した。	妥当な評価